

- 経済の好循環実現に向けて -

底上げ・底え 格差の是正



二月二日、気仙教育会館において、連合気仙地域の六単組一八名の役員三役が集結し、春闘決戦を有意に進めるため、二〇一六春闘の状況を確認し合った。

2016 春闘情報交換会（地場単組）

交換会は、梅澤地協議長の挨拶後、連合岩手の春闘の考え方、出席単組の昨春闘の状況、今春闘の要求内容について情報を取り交わした。

二〇一六春季生活闘争は、月例賃金にこだわらず、賃上げの流れを継続させる必要がある、連合岩手は、要求目安として①平均賃金水準の二%相当額、②賃金カーブ維持分、③格差是正分を含め、額で一〇五〇〇円の賃金改善に取り組み。時間給は、地域特性や職種を考慮しながら正社員との均等処遇の実現に向け、時給が一〇〇〇円に満たない場合は、六一円を要求目安とした。

また、ワークルールに関連して各種職場環境の現状把握・分析、改善に取り組みことを要請している。

出席した単組からは、昨年



昭和の高度成長期には「企業戦士」「モーレツ社員」という言葉が生まれた。その言葉には「会社のためになが身を捧げて一生懸命働く」という含意があった。

その「モーレツ社員」を支えていたのは誰だったのか。そして、人口が減少しつつある現在の社会において、誰が支えるのか。

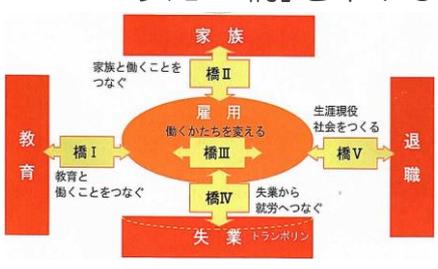
連合は二〇一〇年、「働くこと」に最も重要な価値を置き、自立と支え合いを基礎に、誰もが公正な労働条件のもと多様な働き方を

の結果や今春闘の要求内容と職場状況に触れ、社長が変わり対応が良くなった、生産額の目標達成度で判断され要求額で妥結、要求の半額で妥結、復興需要で早出や残業が増えている、時間外はほとんどないなど。一時金、年間休日や所定労働時間、年休取得状況にも触れながら、労働環境の改善も含め、三月末から五月中旬の回答指定日に向け、各持ち場で交渉を強化することを確認した。

通じて社会に参加できる、そうした活力にあふれ、自己実現に挑戦できる参加型社会を「働くことを軸とする安心社会」と名づけ、めざすべき社会像として提起した。

高揚を図るところとするもの。戸田大船渡市長の挨拶後、講演講師の隠岐諸島・海士あま町総務課の柏谷さんから、「ないものはない、離島からの挑戦」と題し、一度は財政再建団体転落も見込まれた中、新冷凍技術「CAS」の導入などで生産者の手取り確保、役場の人件費大幅力ツトなど官民一体となった行政改革、公立塾による島留学、全国から「異文化・多様性」の持込み等で三二六世帯の移住があった。

5つの「安心の橋」を架ける



二月二七日、大船渡市が主催した「地方創生シンポジウム」には、市内外から約三〇〇人が参加して、リアスホールで開催された。シンポジウムは、昨年策定した「大船渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の具体化に向けて市民の意識

地方創生

シンポジウム

は、人づくり・消費者の共感がないとモノは売れない。他地域との連携もひとつの方策でブランドの一部に組込むことを語った。

誤記訂正

前号「一〇一〇号」の五段目の記載が間違っていました。申し訳ありません。以下に訂正を願います。
(誤) 現職六期五四歳
(正) 現職六期六一歳